

ハワイの火山噴出物 —その2—

須藤 茂 (地殻熱部)
Shigeru SUTO

曾屋 龍典 (環境地質部)
Tatsunori SOYA

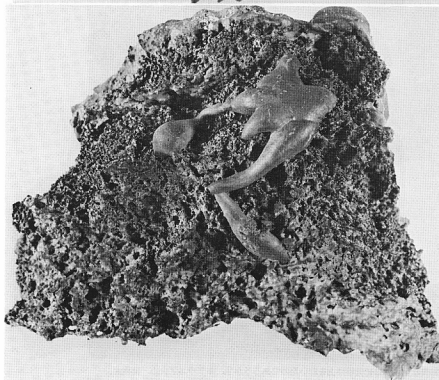
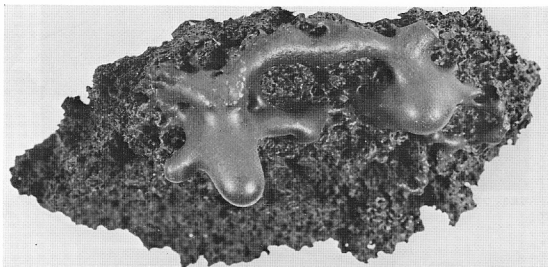
三村 弘二 (地質部)
Koji MIMURA

松久 幸敬 (鉱床部)
Yukihiro MATSUHISA

溶岩流の表面は固結しても 先端は流下し続けることがある。これはまだその内部は高温で流動性に富んでいるためであり 内部を流れる溶岩の面が低下すると 表面の固結部との間に空洞ができる。これが溶岩トンネルである。その内壁には溶

岩鍾乳石 (lava stalactite) や溶岩石筍 (lava stalagmite) などが見られる。

(写真1 2 4 5 6 8 9は正井義郎氏撮影)



↑写真1
溶岩鍾乳石
マウナ・ロア1868年溶岩の
溶岩トンネルの上壁。
写真の幅は約8cm

↑写真2
同じ溶岩トンネル内の溶岩
の滴がしたたり落ちたもの。
実物大



写真3 ファアライ火山1801年溶岩流の小さい溶岩トンネル。 ハワイ島北西部コナ飛行場付近。

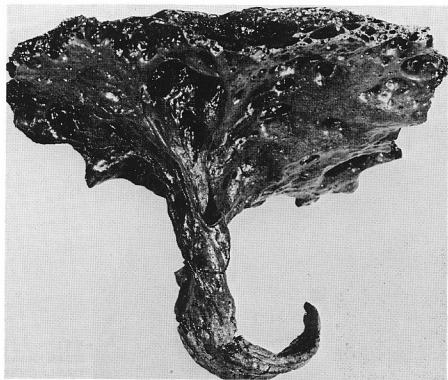


写真4 溶岩鍾乳石の特異な例。 なぜ先端は上をむいたのであろうか？。キラウエア火山。実物大。

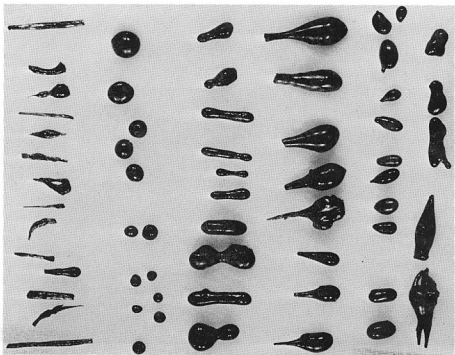


写真5 ベレーの涙。中央一番下のアレイ状滴の長さは1cm (本文 p.36 参照)。

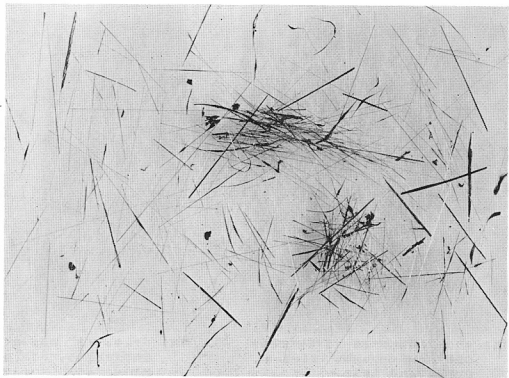


写真6 ベレーの毛。写真の幅は8cm (本文 p.37 参照)。

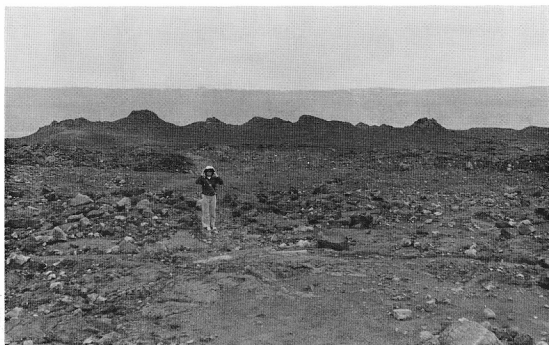


写真7 キラウエア・カルデラ底の1954年噴火でできたスパッター
ー・ランバート 後方はカルデラ壁 (本文 p.34 参照).

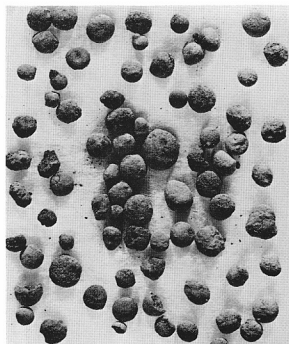


写真8 キラウエアの1790年の水蒸気—マグマ爆発でできた火山豆石 (accretionary lapilli). 径3—8mm.
指で簡単につぶれる. 淡黄灰色.

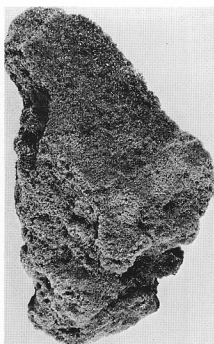


写真9 レティキュライト. 斑晶が少なく
空胞の大きさがそろっている. 長
径11cm. もろい. マウナ・ロ
ア南西山腹の噴出物.